

## 平成15年度海洋地球研究船「みらい」を利用する 研究課題及び乗船研究者の公募について

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）は、海洋地球研究船「みらい」の共同利用型の運用を行うにあたり、平成15年度の「みらい」の研究航海において実施する研究課題及び乗船研究者を下記のとおり募集します。

「みらい」の機能を効果的・効率的に利用して優れた成果を導き出すため、当センターは「みらい」を利用して実施する研究課題及び乗船研究者を国内外から公募し、科学的に優れた研究課題を「みらい」運用検討委員会（委員長：半田暢彦 愛知県立大学教授）による厳正な審査により採択し、これに基づき運用を行っています。

今回の公募は、[平成15年度「みらい」運航計画（別紙）](#)に記載されている平成15年5月から平成16年4月までの研究航海が対象となります。

### 記

#### 1.募集内容

平成15年度に実施する5回の航海行動において、主要研究課題に沿う個別研究課題及び乗船研究者

#### 2.募集期間

平成14年6月20日（木）～7月19日（金）

（応募書類は、平成14年7月19日（金）消印有効）

#### 3.運航計画及び海域

[平成15年度「みらい」運航計画（別紙）](#)を参照

#### 4.応募資格

（イ）国内の研究機関、大学その他に所属する国内の研究者等

（ロ）国外からの応募については、（イ）の国内の研究者等を応募代表者とし、これと共同して応募する研究者

#### 5.募集人数

各航海とも最大28名。ただし、主要研究課題の内容によってはさらに制限があります。

#### 6.募集方法及び選考方法

応募書類は、海洋科学に関係する大学、研究機関（民間含む）、学会に広く配布します。また、ホームページ上においても20日からダウンロード出来ます。

応募のあった研究課題及び乗船研究者については、8月下旬に「みらい」運用検討委員会にて審査を行い、選定する予定です。

### 参考資料

a.[平成15年度「みらい」運航計画](#)

b.[平成15年度「みらい」研究航海海域図](#)

c.[海洋地球研究船「みらい」要目](#)

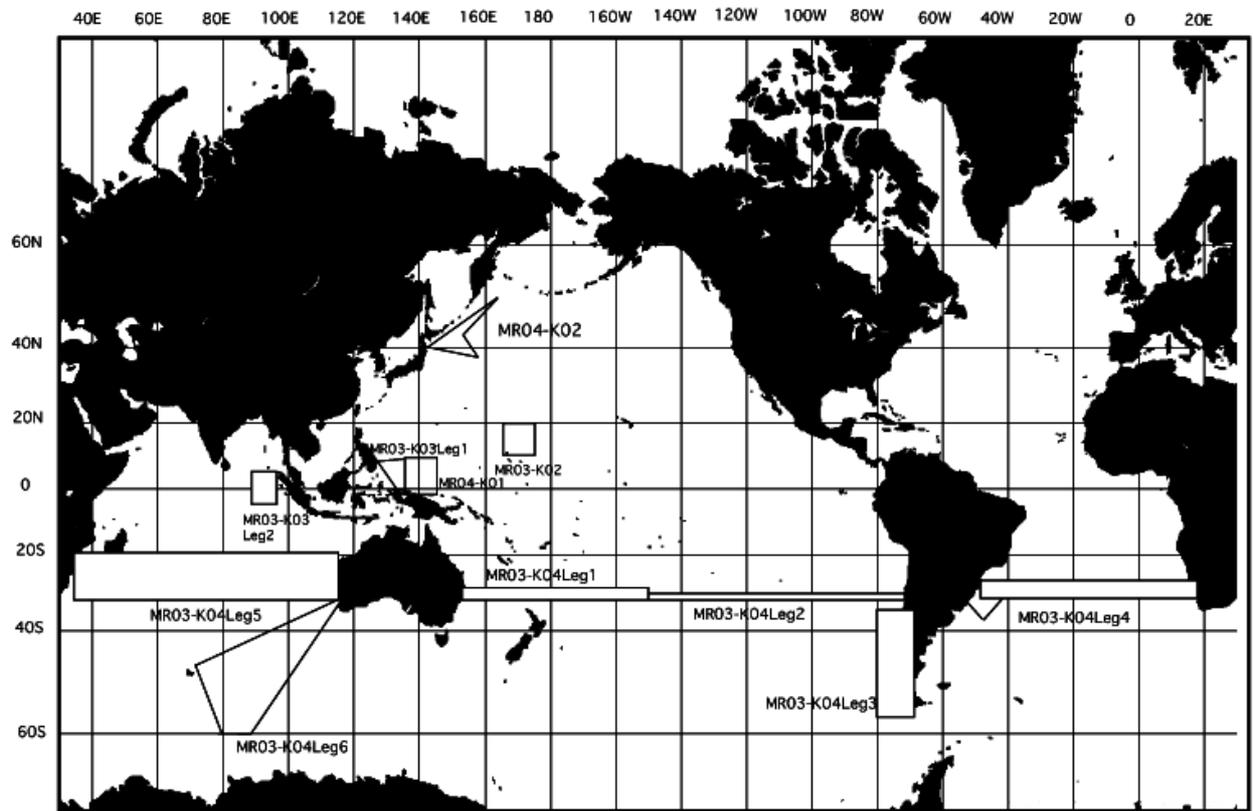
研究業務部計画調整課 小池・佐々木  
 電話 0468-67-9883  
 E-mail: mirakobo@jamstec.go.jp

総務部普及・広報課 鷺尾・野澤  
 電話 0468-67-9066

ホームページ <https://www.jamstec.go.jp>

### 平成15年度「みらい」運航計画

航海番号	主要研究課題	主たる海域	航海期間	寄港地	調査主任予定者
MR03-K02	海洋大循環による熱・物質輸送と その変動に係る観測研究	北太平洋中央海域	H15.5.22～ H15.6.8 18日間	関根浜 グアム	海洋科学技術センター 山本 浩文
MR03-K03	西部熱帯太平洋・インド洋の観測研究	西部熱帯太平洋海域 東部インド洋海域	H15.6.9～ H15.8.8 61日間	グアム シンガポール プリスペン	海洋科学技術センター 水野 恵介
MR03-K04	海洋大循環による熱・物質輸送と その変動に係る観測研究 海洋の化学環境変化の把握に係る観測研究 海洋環境変遷の解明に関する研究	南半球中緯度海域 チリ西方海域 インド洋南方南大洋海域	H15.8.13～ H16.2.10 182日間	プリスペン タヒチ バルパライソ サンパウロ ケープタウン フリーマントル フリーマントル	海洋科学技術センター 深澤 理郎 渡邊 修一 原田 尚美 吉川 泰司
MR04-K01	大気-海洋相互作用に係る観測研究	西部熱帯太平洋海域	H16.2.13～ H16.3.16 33日間	フリーマントル 関根浜	海洋科学技術センター 米山 邦夫
MR04-K02	北太平洋時系列観測研究	北西部北太平洋	H16.3.20～ H16.4.15 27日間	関根浜 関根浜	海洋科学技術センター 本多 牧生



平成15年度「みらい」研究航海海域図

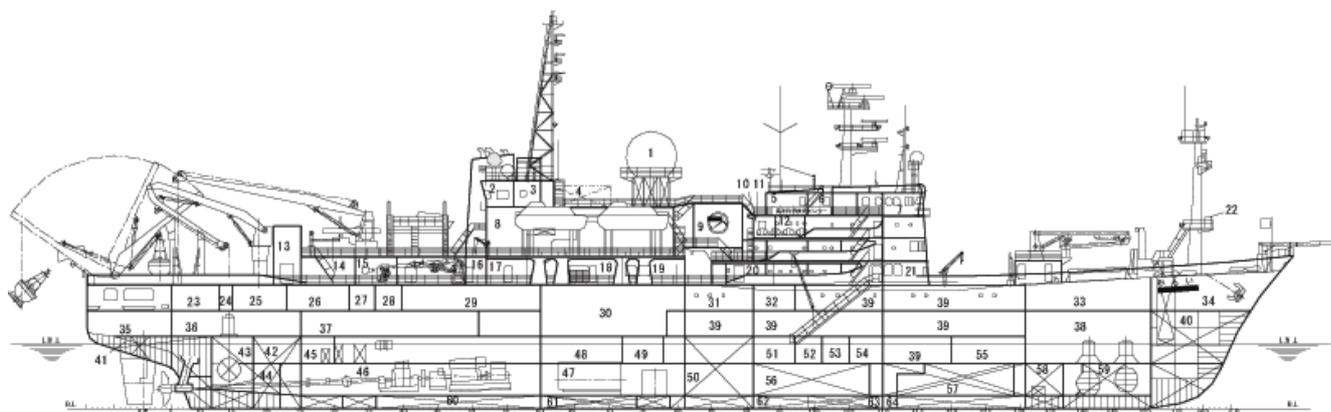
## 海洋地球研究船「みらい」要目

### 基本仕様等

1.主要目	主要寸法（長さ×幅×深さ×喫水）	128.58m × 19.0m × 10.5m × 6.9m
	総トン数	8,687トン
	研究員/観測員/乗組員	28人/17人/35人/（合計80人）
	航海速力	約16ノット
	航続距離	約12,000海里
	推進システム	ディーゼル・電気複合推進、可変ピッチプロペラ
2.就航		平成9年（1997年）10月

### 主な観測研究設備

海洋観測研究設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室（13室）</li> <li>・コンテナ研究室（4基設置可能）</li> <li>・音響航法装置（送受波器昇降装置付）</li> <li>・マルチナロピーム測深装置</li> <li>・音響式流向流速計</li> <li>・地層探査装置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電波航法装置</li> <li>・CTD 採水装置</li> <li>・XB T（投棄型自記水深温度計）</li> <li>・XCP（投棄型流向流速計）</li> <li>・XCTD（投棄型塩分濃度温度深度計）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・200φ採水装置</li> <li>・20mピストンコアサンプラー</li> <li>・プロトン磁力計</li> <li>・船上重力計</li> <li>・船上磁力計</li> </ul>
海洋観測研究補助装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aフレームクレーン（22トン）</li> <li>・小型CTD採水システム</li> <li>・観測ウインチ（7基）</li> <li>・トラクションウインチ（3基）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェルコンペンセータ（3基）</li> <li>・多関節式デッキクレーン（3トン×21m R）</li> <li>・ジブ式クレーンデッキクレーン</li> <li>・係留パイハンドリングシステム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CTD採水器</li> <li>・ハンドリングシステム</li> <li>・船内データ管理システム</li> </ul>
気象観測研究設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象関係観測室（3室）</li> <li>・総合海上気象観測装置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気ガス採取装置</li> <li>・高層気象観測装置（ラジオゾンデ等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドップラーレーダー</li> <li>・衛星データ受信システム（NOAA, GMS等）</li> </ul>



1-ドップラーレーダー、2-後部操舵室、3-ドップラーレーダー室、4-ラジオゾンデ（放球コンテナ）、5-調査指揮室、6-無線室、7-操舵室、8-第1係留パイ格納庫  
 9-減揺装置室、10-気象観測室、11-バッテリー室、12-衛星受信室、13-スウェルコンペンセータスペース、14-ウェットラボ2、15-甲板部準備室、16-ウェットラボ1  
 17-CTD室、18-船用品庫②、19-甲板部控室、20-非常用発電機室、21-大会議室、22-大気ガス採取プラットフォーム、23-海水処理室、24-冷蔵庫、25-冷凍庫  
 26-クリーンルーム、27-オートサル室、28-生物・化学区画用空調機室(A)、29-研究機器用倉庫兼観測機器倉庫、30-第2係留パイ格納庫、31-データ処理室  
 32-乾燥室、33-船用品庫①、34-甲板長倉庫、35-舵取機室、36-ウインチ室、37-ロープ庫、38-バスラスタ室、39-居室、40-FPT、41-APT、42-No.5 BW T  
 43-スタンスラスタ室、44-No.5 FOT、45-第6空調機室、46-主機室、47-発電機室、48-機関部工作室、49-機関制御室、50-No.2 FOT、51-手荷物ロッカー  
 52-漬物庫、53-乾物庫、54-米庫、55-表層海水分析室、56-No.1 FOT、57-PWT、58-固定バラスト、59-No.1 BW T、60-No.4 FOT、61-No.3 FOT、62-No.3 BW T  
 63-音響ドーム、64-FWT